

環境報告書に対する監事監査意見書

Auditors' Review

当研究所では、環境報告書を開示する内容の信頼性を高めるために、当研究所の監事による監事監査の一環としての環境監査を経て環境報告書を発行しています。

監事は、環境活動を取りまとめた環境報告書は理事長をはじめ幹部の環境に関する業務執行の結果であるとの認識のもと、年間を通じた環境監査を実施しており、環境報告書発行にあたり環境監査結果を環境報告書に対する監事監査意見書としてまとめています。

独立行政法人農業環境技術研究所「環境報告書 2011」に対する監事監査意見書

平成 23 年 11 月 29 日

独立行政法人農業環境技術研究所
理事長 宮下 清 貴 殿

独立行政法人農業環境技術研究所

監事 水谷 順 一

監事 堀 雅 文



水谷、堀の両名は、独立行政法人農業環境技術研究所作成の「環境報告書 2011」について、業務監査の一環として行っている環境監査の結果と併せて監査を行い、協議の上、本監事監査意見書を作成しました。以下の通り報告いたします。

1. 環境監査の目的

当研究所は、事業そのものが環境に関する研究であります。よって、当研究所の作成する「環境報告書 2011」は、理事長はじめ全職員の業務執行の結果そのものであると認識し、監事監査の対象としました。監査の目的は、同報告書の信頼性を独立した立場から監査し、その結果を報告することです。

2. 監査項目と監査方法

(1) 環境報告書の自己評価体制とその機能の有効性について

- * 監査報告書作成担当部署以外の評価部署の評価体制とその実態
- * 評価部署における評価項目と評価内容

(2) 監査報告書の内容の信頼性について

業務監査の一環として、環境マネジメントシステムの有効性・機能性および法令・規則の遵守状況を、関連会議の出席、重要資料の閲覧、現場往査等の方法で監査を行っています。その業務監査の結果と、その基礎になる関連資料と本環境報告書の内容（環境マネジメント、各種環境パフォーマンス数値等）との整合性について監査しました。

3. 環境監査の結果

(1) 環境報告書の自己評価体制とその機能の有効性について

環境報告書作成部署とは別の部署である監査室が環境報告書を評価する体制をとり、平成 19 年 12 月に環境省から公開された「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き」を活用し、忠実に自己評価していることを認めます。

(2) 環境報告書内容の信頼性について

今回で 7 回目の発行で、年度毎の「研究トピック」から研究業務内容の変遷が良く理解される工夫が施されています。職場の防災・安全管理強化に関しては、安全管理室等の組織面の補強と同居する他の研究機関と合同防災訓練をここ数年間継続実施してきた結果、東日本大震災と原子力発電所事故への迅速な業務対応が開始出来ました。この環境報告書で特筆すべき事項です。設備の運転・保守管理面でも強化され、トラブル件数の半減や、厳しい猛暑にも契約電力維持を達成しています。今後の大きな節電対策案が期待できます。BCP(事業継続計画：大災害時の被害を最小限にして早期に事業復帰)と運転経費節減の考えが全職場に浸透してきたと判断されます。これら全職員参加型の安全で快適な職場作り運動が継続されて、その効果が見える化され信頼性は向上したと評価します。また次回から環境会計情報の記載についてより充実されることを期待しています。 以上